

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成27年11月2日 NO.62 (262)



オー君 「この前のお話の続きだけど、植物は、そのフィトンチッドを人間のために出しているということですね。」

モンタ博士 「いやいや、そうじゃないんだ。そのフィトンチッドというのは、人間だけでなく、植物が自分の体を守るために出しているんだよ。」

オー君 「え！植物が体を守る？ってどういうことですか。」

花ちゃん 「植物はだれから体を守ろうとしているのかしら。」

モンタ博士 「その前に、植物は動物とちがって、おそってくる敵に対しては向うこともできないし、にげることもできないだろう。」

花ちゃん 「そうですね。動けないからにげられないですね。」

モンタ博士 「だから、植物は自分の体の中から、そのフィトンチッドというものを出しているのさ。」

オー君 「植物をおそう悪いやつというのは、いったいだれなんだろう。」

モンタ博士 「その悪いやつとは、バクテリアとか細菌とかよばれるバイキンみたいなものとか、カビなどだね。植物はいつもそういう悪いやつと戦っているのさ。」

花ちゃん 「その悪いやつが入って来ないために、植物はフィトンチッドを自分の体から出しているということですね。」

モンタ博士 「そのとおりさ。フィトンとは植物という意味で、チッドとは殺すという意味なんだ。フィトンチッドは、悪いバイキンなどを殺すということなんだ。」

オー君 「そのフィトンチッドは、人間には悪くないの。害にならないの。」

モンタ博士 「フィトンチッドは、人間にはもちろん害はないから安心していいよ。むしろ、ぎゃくだね。フィトンチッドのかおりは主にテルペン系の物質というものなんだけど、むずかしくなるからやめるけどね。」

オー君 「テルペン？むずかしいお話はごめんです。わかりやすく言ってください。」

モンタ博士 「テルペンという物質には、バイキンをやっつける性質があるんだ。植物の葉っぱには、そのテルペンというものがふくまれているというわけさ。植物の葉っぱでいろいろな食べものをつつんだりするのを知ってるかな。」

オー君 「そうだ！かしわもちがかしわの葉っぱでつつんであるぞ。それから、さくらもちやささダンゴもそうだ。」

花ちゃん 「ホオバめしとか、ホオバみそとかもそうだ。それから、おすし屋さんのガラスのケースにヒノキの葉っぱを入れておくのも、何か関係あるの。」

モンタ博士 「そのとおりだよ。かざりを入れてあるのではなく、お魚がくさらないようにするためなのさ。昔から、人は植物のひみつを利用してきたんだね。コンビニ弁当に緑のビニールみたいのが入っているのも、そのなごりだね。」

花ちゃん 「なーるほど。これからも人間と森は仲良くしていかなきゃね。」

モンタ博士 「明日は文化の日でお休み。またどこか山登りてくてくしてくるね。」

花ちゃん 「え！また、どこかにてくてく行くのですか。」

オー君 「こんどはぼくたちも連れてってくださーい。」 4年矢川探検の様子は次号！

森林欲のすすめ・・・森の効用その2

ある学者が森林欲の効果を医学的な側面から研究したそうである。まず、軽井沢のカラマツ林の中を20分程、散策した後、暗室に入って目の瞳孔の縮小・拡大など、光反射を調べたそうである。また、この実験と同じ気象条件や同じ明るさで、大学の実験室で測定したそうである。すると、森の中での測定の方が反射の変化量が大きかったのである。このことは、森の中の方が瞳孔の活動、いうなれば大脳の活動レベルがより高いことを示しているそうである。つまり、森林や木々の香りは、神経系の活動を活発にさせて、精神の集中にも役立つということが言えるのである。